

「古代までの日本」を大観する

—大陸から稲作が伝わったことにより
国が出現した—

長野県公立中学校教諭

はじめに

新学習指導要領の歴史的分野の目標には、「我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ」とある。そして、歴史的分野の学習の中心は「我が国の歴史の大きな流れ」の理解であり、「各時代の特色」はそのために踏まえるべきものだという位置づけを明確にしている。

また、時代の転換にかかわる考察学習で求められているのは、時代と時代の間で何がどう転換したのか（何が変わったから新しい時代なのか）を、生徒が納得・理解して自らの言葉で説明できることである。自分の言葉で説明できるような深い理解に達するためには、言語活動を重視した「考える」過程が不可欠である。いわば、探究活動を通じて、それ以後の活用にたえるような深く確かな習得を図ることが必要である。

2 単元の構想

習得の場面

- 第1時：日本列島にやってきた人類
- 第2時：東アジアに大きな影響をあたえた中国文明と世界の文明
- 第3時：稲作による生活の変化
縄文時代（三内丸山遺跡）から弥

生時代（吉野ヶ里遺跡）への転換の様子を考える。

- 第4時：「むら」がまとまり「くに」に
- 第5時：さかんになる朝鮮半島との交流
活用の場面

第6時：まとめ

「関連マップ」を描き、農耕の広まりが社会にもたらした変化を自分の言葉でまとめる。

東アジアの文明の影響を受けながらわが国で国家が形成されていったことを理解できるように、基礎的・基本的な知識の習得とその活用の学習を位置づけた単元を構想した。

なお、時代の特色をとらえる学習や時代の転換をとらえる学習は、「古代までの日本」を学習したあとに位置づくものであるが、縄文時代、弥生時代、ヤマト王権の成立時を「古代までの日本」の前半ととらえ、単元を構想した。

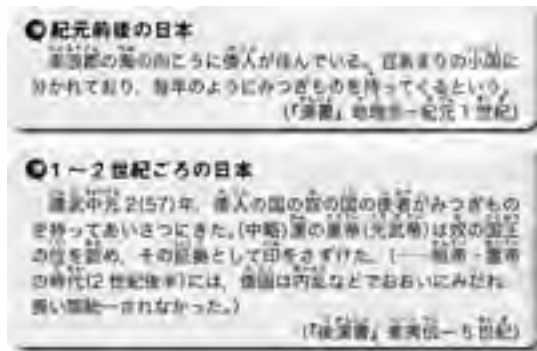
3 単元の展開

生徒に稲作や金属器が伝わったことによる、社会や人々の生活の変化をとらえさせるために、第3時、教科書にある三内丸山遺跡と吉野ヶ里遺跡の拡大した資料を黒板に貼り、生徒に共通点や相違点を見つけさせて発表させていった。その際には、小学校での学習を踏まえて大きくとらえさせるようにし、資料集「中

学校スタンダード歴史資料」でそれぞれの時代の様子を確認しながら授業を進めていった。

その後、生徒に同様のものが載っているワークシートを配布し、以下の観点をもとに、矢印でつなぐようにしていった。

- 1 廃止 (今まであったものがなくなっている)
- 2 新設 (今までになかったものがある)
- 3 継続 (両方に見られる)
- 4 変更 (形を変えている)



「中学校スタンダード歴史資料」p.26



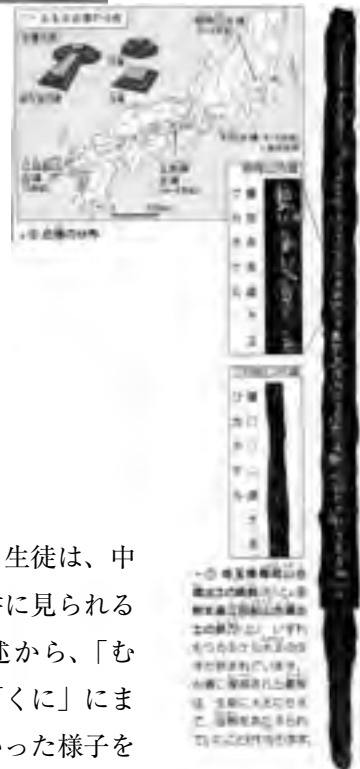
「中学生の歴史 初訂版」p.24

ような変化の起こった要因として考えられることをワークシートに記入するように促した。生徒は、生産活動の変化と遺跡のつくりの変化や社会の様子の変化を関連づけてまとめた。✔



「中学生の歴史 初訂版」p.26

生徒は、継続しているものとして、竪穴住居を見つけたり、新設されたものとして、壕や柵、物見やぐら等を見つけたり、変更されたものとしては、人々の生産活動の様子を見つけたりしていった。そこで、教師は、この



第4時、生徒は、中国の歴史書に見られる日本の記述から、「むら」から「くに」にまとまっていった様子を学んでいった。そして、「中学生の歴史 初訂版」p.29

地理

歴史

公民

地図

社会科

第5時、畿内地方の古墳の分布や稲荷山古墳出土の鉄剣から、ヤマト王権（国家）が誕生し、各地の豪族を従えていったことを学んでいった。

第6時、今まで習得してきた基礎的・基本的な知識を活用して、「古代までの日本」の前半において、農耕の広まりが社会にもたらした変化を自分の言葉でまとめる学習を位置づけた。

1年生の発達段階を考慮して、今までの学習を整理するために、習った歴史的事象や事柄を自由につなげるようにした。そこで、生徒は、農耕が広まる前後の様子をキーワードでつなぎ、ワークシートに以下のように整理していった。



その後、農耕の広まりが社会にもたらした変化をまとめるのに必要となる重要なキーワードを上記のワークシートから選びだし、ワークシートに記入するようにした。

生徒は、キーワードをつないだワークシートから農耕が広まる前後を比較して、「渡来人」「争い」「むら、くに」「指導者」を重要なキーワードとして選びだした。その後、教師は、選び出した重要なキーワードに優先順位をつけるように促した。

生徒は「渡来人」のもたらした農耕やその技術が日本に大きな変化を与えたことに着目して、「渡来人」を最も重要と考えるキーワードとして、以下「むら、くに」「争い」「指導

発表用ワークシート

学習課題 農耕の広まりは社会にどのような変化をもたらしたのだろうか。

1 農耕によってから学習課題を説明するワークシートにまとめた内容を基として、

2 選り出したキーワードを農耕の広まり前後でつなげて、

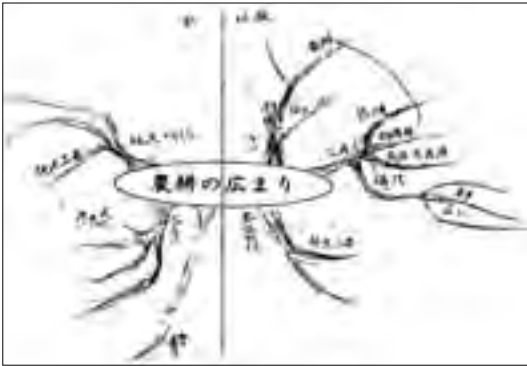
3 農耕の広まりは社会にどのような変化をもたらしたのかを説明して、

者」の順に並び替えた。その後の全体での発表の場面では、「『渡来人』が農耕をもたらしたり、技術を伝えたりしました。そして、稲作が始まると『むらやくに』ができたり、『争い』が起こったり、『指導者』が生まれたりしたので、このように優先順位をつけました。」と発表した。

そして、教師が示した「関連マップを描く約束」に従い、「関連マップ」を描き、農耕の広まりがもたらした変化について、「関連マップ」をもとにワークシートにまとめた。

関連マップを描く約束

- ①中心のテーマから描きだす
- ②重要なキーワードから描いていくことで階層をつくる
- ③重要なキーワードから細かいキーワードへと矢印や線の太さを変えて、描き進めていく
- ④上記以外のキーワードが浮かんだ場合は描き加えていく



渡来人のもたらした農耕が広まり、むらが指導者を中心にまとまった。土地や水などの違いにより、貧富の差も生まれ、争いを経ながらしだいに国へとまとまっていき、大王を中心としたヤマト王権ができた。地位や技術を求め、日本は世界に目を向けるようになっていった。

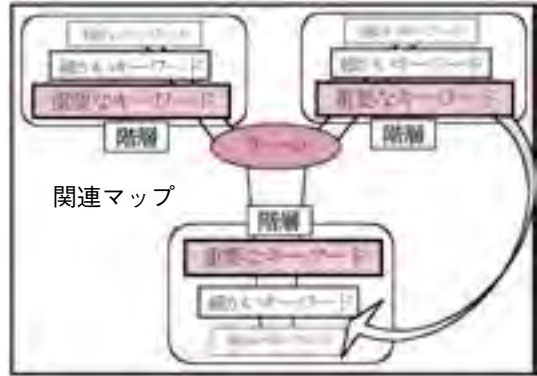
これは、習得した歴史的事象やそれにかかわる事柄をキーワードとして「関連マップ」を描き、農耕の広まりの前後の様子を比較することで、最も重要と考えるキーワードを「渡来人」として、農耕の広まりがもたらした変化をまとめることができた姿である。

4 終わりに

新学習指導要領では、学習内容の「理解」を重視し、過程における思考・判断・表現などの言語活動を充実させる必要性を重視している。また、求められているのは、生徒が納得しながら理解して自分の言葉で説明できるようにすることである。

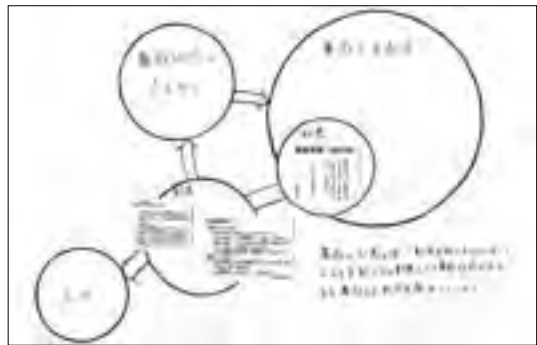
この1年間を通して、生徒の発達段階を踏まえて、思考・判断・表現する力の高まりを明らかにしながら、時代を大観し、各時代の特色をとらえる、時代の転換の様子をとらえる学習を「関連マップ」「歴史図解」という手法を用いて、実践を積み重ねてきた。

以下のような生徒の成長が見られた。



「歴史図解」の描き方

- ①学習問題の答えと考えられる歴史的事象をタイトルとして選びだし、それにかかわる資料を切りだしておく。
- ②「関連マップ」を参考にしながら、選びだしたタイトルの関連性を見出す。
- ③資料を貼りつけ、線で結んだり、線で囲ったりしながら歴史図解を完成させる。
- ④矢印など、自分の考えが伝わるように工夫する。
- ⑤完成した歴史図解の説明文を書く。



教科書の各時代の導入場面にある、「タイムスリップ（想像図）」の比較から、時代の転換の様子をとらえる学習は有効だった。政治面の変革を考えることで、各時代を貫く政治面の特徴を考えていくことにつながり、各時代の特徴を政治面との関連からまとめやすくなるのがわかってきた。